日々神に感謝しよう

聖書の教えによると、福音を正しく理解し、ただキリストを自分の救い主と心から信じた瞬間から、もうすばらしいことが始まっていると約束しています。

- ✦ 自分のすべての罪を許されました。　（ローマ人5:1）
- ✦ 永遠の命を与えられました。　（ヨハネ伝5:24、10:28）
- ✦ 天国に行く確信が与えられました。　（ヨハネ伝14:1-3）
- ✦ 神の子となる資格が与えられました。（ヨハネ伝1:12）
- ✦ 試練の時の理解者と、困難の時の助け主が約束されました。（ヘブル人2:18、4:15-16;詩篇68:5）

ルカ伝17章11-19節によると、イエスは10人のライ病人をいやしました。そのうちの9人までは喜び勇んで立ち去り、イエスに感謝して特にもどって来る事がありませんでした。この9人のライ病人の悪い例に習わないで、神が自分にして下さったことを、神のみ心にかなった生き方をしたり、神の愛のおきてに従ったり、神のみ言葉に忠実に歩んだりすることによって感謝の思いを示そうではありませんか(ルカ伝7:40-43、第1ヨハネ4:19、ヨハネ伝14:21)。

福音を宣べ伝えよう

次のように想像してみて下さい。ある日、10階からピアノがつるしてあり、そのつなが今にも切れそうになっているアパートの前をあなたが知らずに歩いていてピアノが落ちて来たとします。その瞬間、それに気が付いた見ず知らずの人がとっさにあなたを救おうとして突きとばしました。でもこの救ってくれた人は、落ちて来るピアノの下敷きになって押しつぶされてしまいました。この人は息を引き取る前に、自分のポケットから震える手で手紙を取り出し、あなたに渡そうとします。あなたはその手紙を受け取りますか。

イエスはあなたを救うために死んで、その手紙をあなたに残されました。この手紙は福音とよばれるものです。「そしてイエスは彼らに言われた、『全世界に出て行って、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい。』」
(マルコ伝16:15;参照聖句、マタイ伝28:18-20、使徒行伝1:8、ローマ人10:14-15)。あなたはイエスが残した手紙を喜んで受け取りそのゆい言通りに実行しますか。

あなたは友人や知人に、このような簡単な質問をしてみて下さい、「もし今、死んだとしても必ず天国に行けると思いますか。その確信を聖書から正しく説明を受けた事がありますか。」もしその人は説明を受けた事がないと言ったら、「それでは説明してもいいですか」と申し出て下さい。たいていの人は、どうにかしてその確信を持ちたいと思うものです。もしその人がさらに興味を示したら、どこかに落ち着いてゆっくりとこの小冊子などからでも説明してあげてみて下さい。このことによってその人は遅かれ早かれ大いに感謝するに違いありません。

著者について

ロン・シェイ(Ron Shea)氏は、アメリカ海軍予備将校訓練隊奨学金を授与され、ビラノバ大学(Villanova University)で電気工学学士の学位を得た後、4年間海軍士官に服務しながら、ダラス神学校(Dallas Theological Seminary)に通いました。そこで新約聖書と聖書解釈法を専攻し、新約聖書の全巻を、新約聖書の原典であるギリシャ語から翻訳する業をなし遂げました。4年制の神学修士の学位を優秀な成績を修めて授与されました。卒業後ニューオリンズ近郊の教会で牧師となり、現在クリア・ゴスペル・クルセード(Clear Gospel Crusade)の創立者兼会長です。

日本語翻訳者

松野俊一氏は、日本に生まれ育ち、日本での教育を終えて後、アメリカに渡り在留邦人としてアメリカを大変愛しています。サンフランシスコ市営短期大学(City College of San Francisco)に通った後、シンプソン大学(Simpson College)に編入し、旧・新約聖書学を専攻して、文学学士の学位を授与されました。卒業同年にゴールデンゲート・バプテスト神学校(Golden Gate Baptist Theological Seminary)に入学し、3年制の神学修士の課程を修めその学位を授与されました。現在、聖書を新しい観点から明確にするための手引き教材作りに励んでいます。

この小冊子について

最近、福音に関するいろいろな教えが教会だけでなく、時としてテレビやラジオにもはんらんしています。最も一般的な語りかけ「イエスを受け入れなさい」から、極端な表現「あなたは罪人だから悔い改めなさい」までさまざまあります。どの方法も、信者、未信者を問わずその意味を理解しかねがちです。たとえ福音がある程度正確に伝わっても、特に未信者の方々はその意味を曲解していまいます。というのは、いろいろな教えが、はんらんしているからです。こういった状況のもとで、この小冊子が出版されました。これはただ単に贖罪とか、神の恩恵を土台とする信仰について説明するだけでなく、福音の本来の意味を正すことにも力を入れました。複雑な神学論をこの小冊子に読みやすくまとめるのに5年費やしました。福音の意味をこのように明確に、しかも正確に発表した小冊子は他に見当たらないように思います。

できるだけ多くの方々が、この小冊子を読んで下さることを願っております。判権料は、一切著者の望むものではありません。翻訳出版権に興味を持たれる団体には、許可書を発行いたします。もうすでに、いくつかの世界的に有名な福音伝道団体は、この小冊子を自国語に翻訳し始めております。もしまだ訳されていない言語に興味のおありの方は、どうぞ翻訳にご参加ください。この小冊子ができるだけ多くの言語に訳されることを心から願っております。